

# ぶら 探訪

## その式 草戸山界限

講師 田口義之

平成24(2012)年3月31日【土】午前9時スタート

### 主な見どころ

#### 1、明王院

平安時代初期に弘法大師によって開かれたとされる真言宗の寺院。本堂・五重塔は国宝、庫裏・書院は県の重要文化財。本堂・五重塔はこの地に創建された西光山理知院常福寺のもの、江戸時代前期に城下にあった中道山明王院円光寺と合併し、現在の明王院となった。庫裏・書院は本来の明王院の建物である。

#### 2、草戸千軒出土石塔群

昭和初年の芦田川改修工事で出土したもので、草戸の中洲に中世の寺院が存在したことを示している。

#### 3、親王院跡

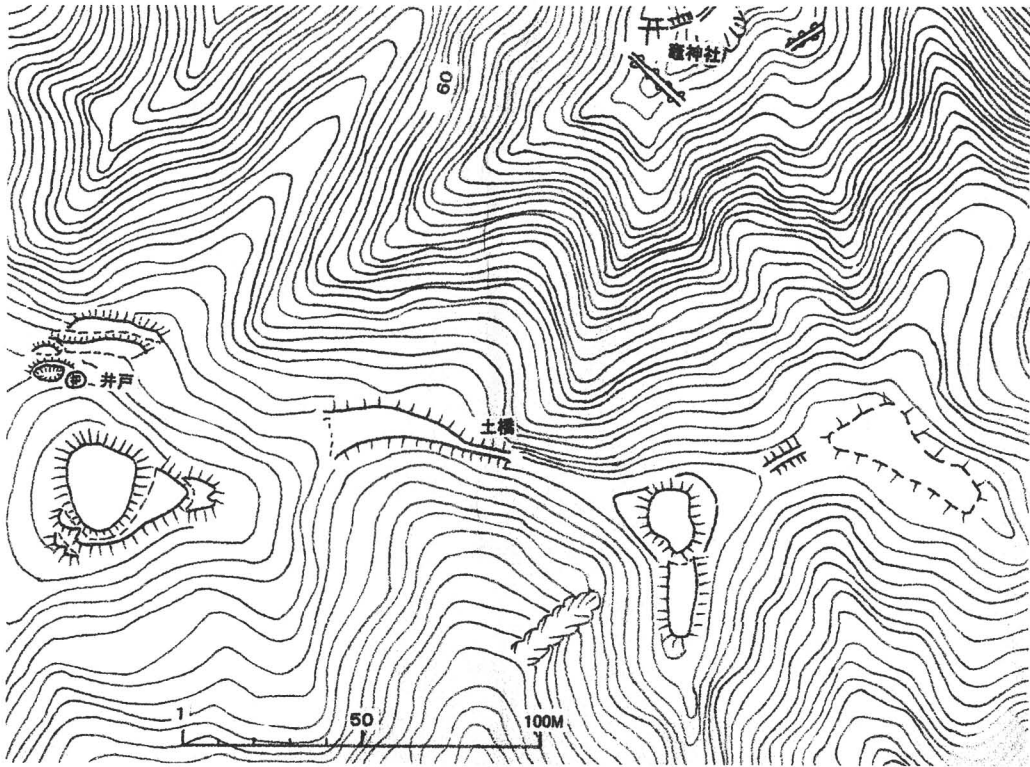
平城天皇の皇子で空海の弟子となった真如法親王が庵を結んだところと伝わる。

#### 4、佐波城跡

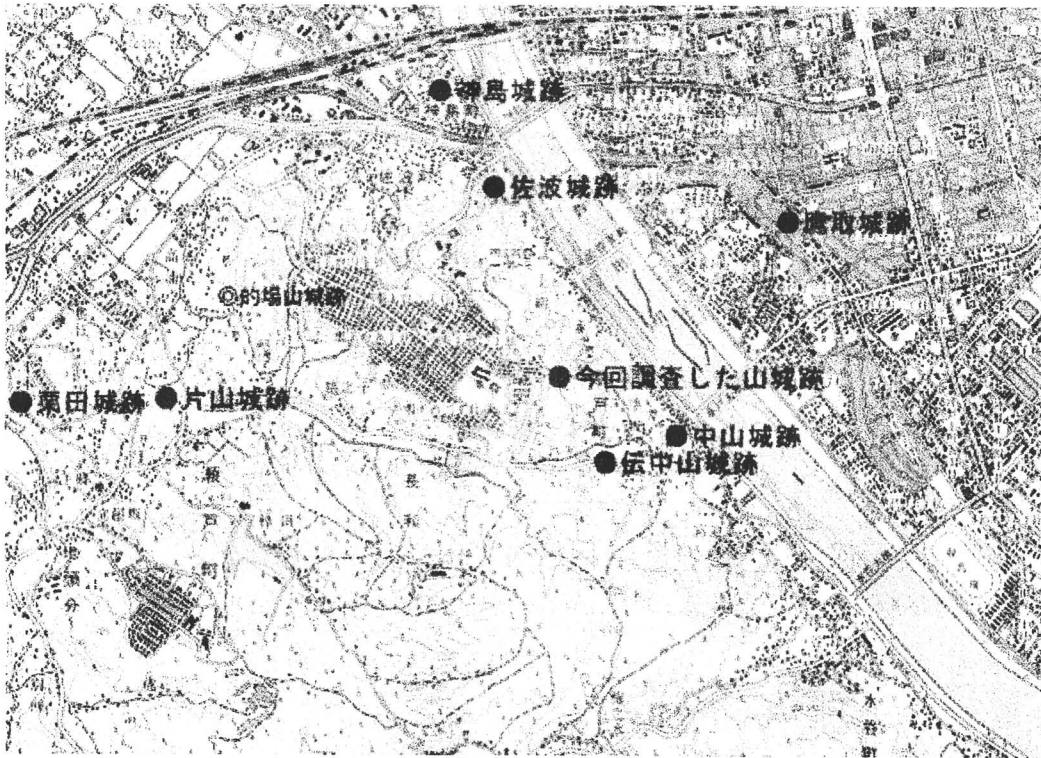
元弘の変で桜山氏に応じて挙兵したと伝わる佐波越中守可美の居城と伝わる。現在浄水場の建設によって半壊し、一部しか残っていない。

#### 5、草戸山城跡

草戸山一帯には、佐波城跡のほか、多くの曲輪跡と考えられる平坦地が残っている。その南端近くの山頂に残るのが草戸山城跡である。曲輪・切岸・井戸跡が残り、室町後期に地元の土豪渡辺氏によって築かれたと推定される。



草戸山城跡略測図



草戸山周辺の城跡分布図

## 記録に見える草戸の山城

『西備名区』沼隈郡草戸村

草戸山城

渡辺越中守高、同和泉守尚、同左馬允政、同信濃守兼などの居城

平坂山城

近藤左衛門尉、居城、年紀ともに分明ならず

『備陽六郡志』外編分郡草戸村

古城壘ヶ所 鷹ノ取 城主渡辺

『福山志料』沼隈郡草戸村

鷹取城

渡辺信濃守、同出雲守、備後古城記応仁年中没落スト云（下略）

### 備後守護山名是豊書状（『閩閩録』四五、三浦又右衛門 113号）

（前略）就中入国事、去十六日備後坪生与申在所迄出陣仕、物寄草土候、敵城即追落、

二十二日至鞆浦寄陣候、近所悉致発向候、然は一兩日可寄詰候、時宜小早川備後守可被申候、恐々謹言

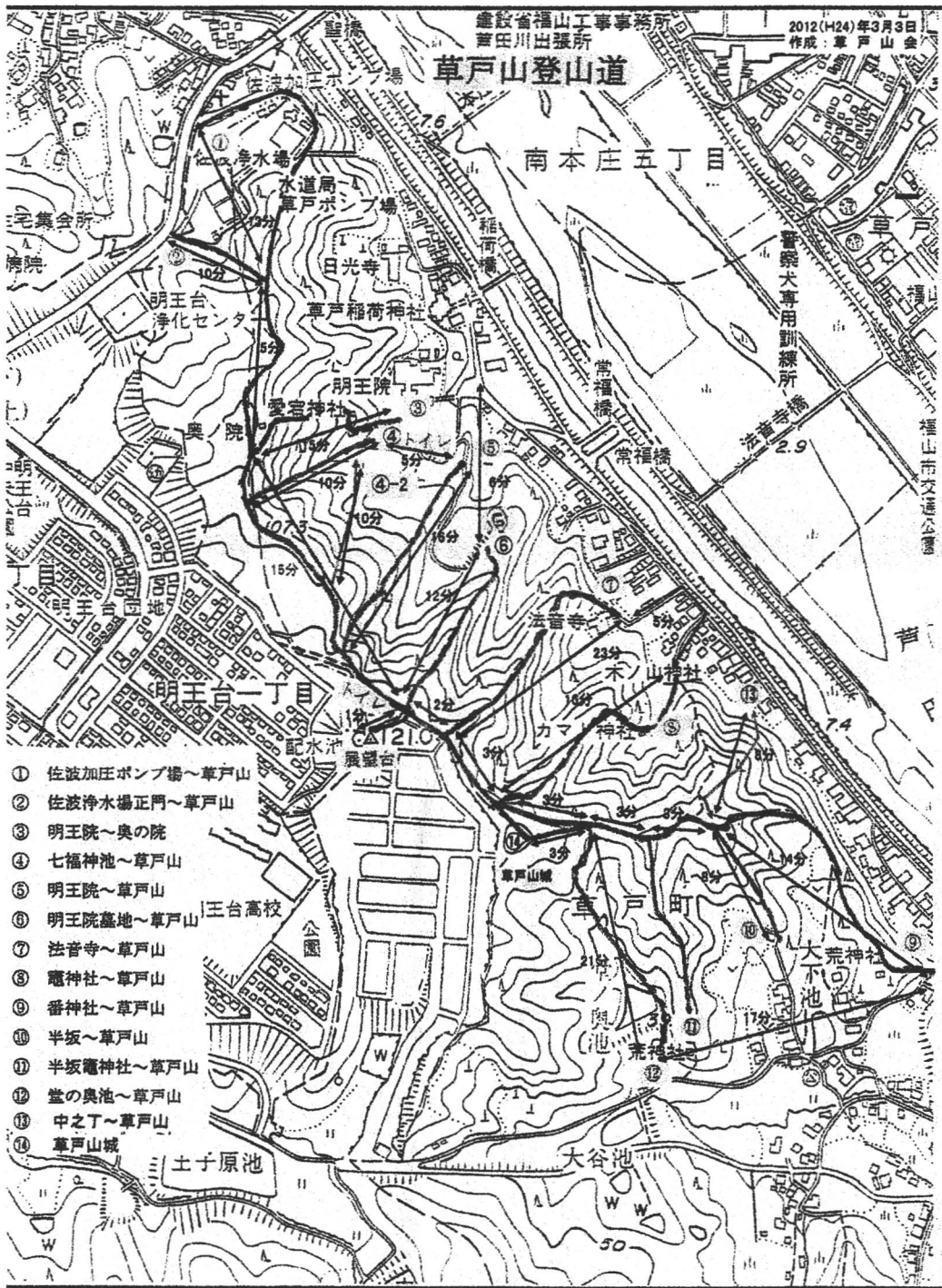
（文明3年【1471】）四月二六日

是豊 判

仁保上総介殿

本文の読み下し

「なかんずく入国の事、去る十六日備後の坪生と申す在所迄出陣仕り、草戸に物寄せ候、敵城即ち追い落とし、二十二日鞆浦に至り陣を寄せ候、近所悉く発向致し候、然らば一兩日中寄せ詰むべく候、時宜小早川備後守申さるべき候恐々謹言」




**備陽史探訪の会 事務局**

〒720 - 0824 福山市多治米町5 - 19 - 8  
 TEL&FAX 084 - 953 - 6157  
 E-メール b-tan-kai@009191.com  
 公式ホームページ  
<http://www3.plala.or.jp/big-eye/>